

FADO 19

Julho 1998

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

3)

月田秀子の昨日、今日、明日

4、5、6月のスケジュールは、凄かった。北は余市、函館、南は鹿児島、と全国を飛び回った事になる。

旅をしていると、各地のお国柄が、ほんの短いおつきあいとはいえ、ちらりと見えることがある。

余市では、林檎、梨、さくらんぼ、メロンと大きな果樹園を営んでいる山本さんの、自然の厳しさに向き合いながら、遅しく、おおらかに生きている豪快さ。何よりも北海道は、明治以降、本土から渡っていった人が多いのと、雄大な自然風土も手伝ってか、皆伸び伸びとして、体裁にこだわらない。一様に、根性悪から、はるか遠く隔たっている。私の弟は、釧路に住み着いているが、すいぶんと大事にされているらしい。冬の寒さが厳しいだけに、春の訪れを、前身で受け止めようとするけげな姿に、ぬくぬくと無感動に流されている我が身を反省。

青森では、今回主催してくれた鳴海さんの昭和27年に発足したという「青森ラテンの会」の二代目会長が、打ち上げの時、歌ってくれた、津軽弁の語り入りの「牛車に揺られて」には、言葉もなく感動。鹿児島での、五木寛之先生の論楽会で一緒に三上寛が詠んだ高木恭蔵の津軽弁による詩集「まるめろ」からの詩にも、それは重なった。

「言葉(方言)が減れば文化もしかり」-帰る故郷も、使える方言も持たない私、せめて日本語を大切にしようと思う。それ以上に、その言葉の奥にあるものを、感じる事のできる私になりたいと思う。

長野の蓼科牧場の近く「四季の森・上海外灘」でのライブの後、つい1週間前、親代わりのように慈しんでいた弟が、自ら命を断ったというひとりの女性がこう感想を述べてくれた。「ファドは、暗く悲しい歌と聞いていたので、あまり気が進まなかったが、聴き終えて心が楽になった。坊さんの言葉も、誰も私を救ってはくれなかった。悲しみは私のものだけではないのだという事に気付いた時、初めて心が晴れて行く思いがした」と言う。秋田から来たえくぼのかわいい和服の似合う女性は、別れ際に、そっとうまく言うように言った。「誰にも言えない悲しみや、辛さ、それを抱えてきたけど、あなたの悲しみを携えながらも力強い歌声に、涙と一緒にすべて流れてしまったような清々しい思いで、秋田に帰ります。」

私自身、自分の歌が、どんな力を持っているかなんて考えた事がないけれど、彼女たちの言葉に、大いに力づけられ、雨の高原を後にした次第。私の歌、ファドの何たるか、教えてくれるのは、聴いてくださる人達なのだ、つくづく思う。

月田秀子



1998.4.20
函館・金森ホール

「月田秀子・ファド」in 北海道 札幌・野田敏子

「月田秀子・ファド」の虜になった私は、ある日3日間も熱を出し寝込んでしまった。この3日間の熱を、札幌熱、余市熱、函館熱と呼んで今は楽しんでる。

思えばそれは、1998年3月6日「月田秀子ファド」を歌うポルトガルの魂の調べ北海道初上陸の札幌から始まった。「ファドって何?」「月田秀子って?」と未知なるものへの憧れと反応の早い札幌っ子は、コンサートへ行かなければ損だ、と我も我もとチケットを買いに走る。ある若い人は「給料前だから」と友人に借金を申込み(プレイガイド)ある友人は外国旅行を中止し、又ある人はチケット発売と同時にプレイガイドへ走り、一步遅れた人は「時すでに遅し」であった。そうそう、コンサートへ行く日の為に洋服を新調した人も。

札幌を嵐の渦に巻き込んだ「月田秀子・ファド」の歌声は、遅しさ、あたたかさ、明るさ、哀しさが北海道の風土とうまく溶け合い、多くの人たちをファドの世界へと誘った。

函館でのこと、実行委員の吉田和子さんのお店「カチューシャ」で、コンサートを終えた月田さんを「今か今か」と待っている時、ひとりの男性が「月田さんは、金銭的な事を度外視しているようなところがあるから、聴いてくれる人がいて、呼んでくれる所なら、どこへでも行くんでないかい」とボソッと誰ともなく話されているのが聞こえてきた。FADO No.17では野上圭三さんが「金のことよりやりたい仕事を目いっぱいやっていこうよ」と月田さんに話されている。月田さんは、様々な人達との、自分自身との出会いを求めている事なのだ。「私は初めて心強い同志を得た思いがした」、とその時の思いを書かれていた。「本物なんだ、月田秀子は!!」と思った。本物がステージに立って歌う時私達は根こそぎ魂を奪われてしまうから怖い。

さて、北海道を嵐の渦に巻き込んだ「月田秀子・ファド」の3日間を追ってみたい。

■98年3月6日(金)札幌道新ホール 700人+(立聴席?人)

「北海道に蟹を食べに来たことはありますが、歌うのは始めてです。皆さんありがとう。立っている方、休憩時間にロビーの椅子で休んで下さい」と涙ぐむ。月田、野上、池側さん全部黒づくめ。底力のある歌声とギターの音色に700?人聴き入る。胸がザクリと決られた。

■98年4月19日(日)ニッカウヰスキー原酒工場見学者会館2F 300人強
「リハーサルがもう少しかかります。開場時間が過ぎていますが、もう少しお待ち下さい」と係の人が説明。肌寒い日であった。外迄溢れている大勢の人達は、愚痴ひとつ言わずにジッと待つ。この日、ワイン、水割りすべて無料。おつまみもあり。特設ステージ近くの人が、月田さんにワイングラスを手渡すと、それを飲んで「早く終わって飲みたいわ、私はいつも安いワインですけど」飲む程に酔う程にステージと会場が一つになったコンサート。「ポルトガル語は分からなくても心で感じて」と月田さん。

■98年4月20日(月)函館金森ホール 350人

前日アルコール類が無料だったので「無料ですか」と聞くと「オール400円でーす」と言う。お客の注文に大忙しのスタッフ。会場はステキなファッションの人達が多く、今迄が一番おしゃべり。「函館にはポルトガル留学前に来ました。リスボンに似ていてここで歌うのが夢でした」と感慨深げな月田さん。思いがけなく、野上さんの硝子細工のような素敵な歌声が流れ、途中大拍手がおきる。「私は歌っている最中、今迄一度も拍手もらった事ないよ」と嬉しそうに月田さん

こうして、北海道3回の「月田秀子・ファド」は無事終わった。「よかったです余市に来ませんか」のT氏の一言に、私は運命的な出会いを感じ、沖繩行きをすぐキャンセルして、余市、函館へと月田さんの後を追った。月田さんにお会いするのもT氏にお会いするのも、この時が始めて。予期せぬ思いがけない出会いに、今でも不思議な思いがしている。

「月田秀子・ファド」に魅かれ、野上さん池側さんのギターの魔術に魅かれ、私の追っかけの旅は今ほじまったばかりなのです。

「月田秀子ファド・コンサート」奮戦記 青森・鳴海通温

1990年、月田秀子さんのファーストCD「SAUDADE」を求めて以来、すっかり月田さんの虜になってしまいました。私自身40年来、ラテン音楽観賞とレコード収集を趣味としており、「ファド」も、アマリア・ロドリゲスを中心に古くから親しんできました。

'90年に中南米音楽の情報誌で、月田さんのCDが紹介された時は、驚きでした。日本で「ファド」を専門に歌っている歌手がいるなんて！……。月田さんとはこのCDを通じて文通でのお付き合いが始まりました。直接お会いしたのは、昨年暮れの三都公演の東京、シアターアプルの楽屋でした。コンサートでは、'90年の「SAUDADE」から大きく飛躍した月田さんに接することができ、上京の目的を十二分に満足させるものでした。

年が明けて、今年の1月末頃と思いますが、月田さんから電話があり、4月に函館で公演があるので、帰路、青森で何かできないでしょうか？ さえ集めてくれれば、津軽海峡を渡って青森で歌ってみたいのですが……とのことでした。

とても嬉しいお申し出でした。しかし、青森で果たして「ファド」を聴きに来てくれる人がいるのかどうか判らず、非常に残念でしたがお断りせざるを得なかったのです。

10年ほど前、私の属する「青森ラテンの会」主催で、アルピスタのルシア・塩満を3年続けて青森へ呼んだことがあります。パラグアイの民族楽器「アルパ」はルシアの演奏テクニックと相俟って、とても素晴らしいものですが、青森では所詮マイナーな音楽なのです。当時のチケット販売の苦勞が、私の脳裏をよぎったのです。

一応お断りしたものの、何となく引掛かるものがあり、後日月田秀子さんにコンサートの見積りを送ってもらいました。

月田秀子ファド倶楽部の一員としては、是非青森の方々への「ファド」を聴いてもらいたいという気持ちと、会場、動員など解決すべき難問に悶々とした日々を過ごす毎日でした。

そうした中、行き付けのスナックで、たまたまカバンに入っていた三都公演「サンケイホール」のライブ・テープを流してもらいました。ママさんに「なに、これ？」といわれ、いろいろ話しをし、コンサートのことなども話しました。店が暇であったこともあり、聴いてるうちに、「やりましょう！」ということになったのです。ママさんが「ファド」の虜になったのです。ママさんが取りあえず会場を探してみるということで、コンサート実現の方向で検討することにしたのです。

青森ラテンの会の2月例会で、計画についての賛同を得て本格的な準備に入りました。

会場は、90人収容のスペイン料理のお店、「ワイン・バル・クランベリー」に決まりました。オーナー白身も大阪ライブのテープを聴きとても気に入ってくれ、本格的にディナー・ショー形式でのコンサートの準備がスタートしたのです。

苦勞したのは、チケットの販売です。ママさん10枚、クランベリー10枚、ラテンの会20枚、私が50枚というおおよそのメドで始まりました。大々的にPRせずに、口こみで販売することになりました。ただし、会場は一杯にするということで……。

コンサートの主旨を書いた、勧誘のパンフレットを作りセールス開始です。いろいろな人脈やコネを使っただけの、訪問勧誘です。「ファド」、月田さんとの関わりなどを説明し、お願いしながら輪を広げていきました。

4月中旬、北国青森では例年より10日も早く桜が開花し始めました。チケットの販売も順調に進み、最終的に10名追加の100名となる嬉しい結果ができました。

かくして、コンサートの当日を、晴天の中、無事迎えることができましたのです。

7～8割のお客様が初めて「ファド」を聴くという状況でしたが、コンサートの反応も良く、今までの苦勞も吹っ飛んでしまう、とにかくホットし肩の荷を下ろした思いでした。

コンサートの打ち上げは、今回の企画に最初から関わっていただいたママさんの店「自遊空間・駄運多運」で、月田さんご一行をお迎えし、有志20数名の参加で大いに盛り上がる中、楽しい夜を過ごしました。皆さん大満足の一夜でした。

翌22日、9時40分ホテルお迎え、野上さん、池側さんのお二人はお仕事の関係で、朝の便で大阪へ、月田さんは夕方の便で帰られるとのことで、伴奏のお二人を青森空港にお送りし、その後、月田さんを桜の弘前城へご案内いたしました。全国的にも有名な弘前城の桜は、例年4月23日頃から5月5日までなのですが、今年は4月20日頃に満開になってしまいました。

月田さんと訪れた弘前の桜は、ピークをやや過ぎた感もありましたが、華吹雪の公園をゆっくり散策でき、私にとってこの上ない至福の時間を持つこととなりました。

月田さんは、桜は満開の時より散り始めた頃が大好きとか、華吹雪の中を「ファド」への思いや、ポルトガル留学の頃のお話など、時間を忘れてしまう程でした。

月田さん、お酒を全く飲まない野上さん、寡黙な池側さん、コンサート、打ち上げパーティ本当にありがとうございました。

青森に「ファド」の輪が大きく広がり、再び月田さんの生の歌が流れることを念じつつ、夢は限りなく大きくなるばかりです……。

後日談になりますが、地元新聞が月田さんに取材したポルトガルの食べ物、生活etc.とコンサートの模様を、大きな記事になりました。

ficção

読切連載
秀子のエピソード帖[その13]
内間 天馬

見よ、黒田会長の根性を！

昨年秋、当倶楽部会長の黒田清氏が入院された事は、新聞TV等で御存知の方も多いかと思えます。突然のことで私も驚いたのですが、いきさつを聞いて、さらに呆れたのなんの、いやはや……。一杯気分が帰還した黒田さん、顔がやけに黄色いのを奥方に指摘され「えらいこっちゃ」。何を思ったのか、またまた呑みだしたそう。つまり、こら当分入院せなあかんな、の「えらいこっちゃ」ではなく、しばらく呑めんようになるがな、の「えらいこっちゃ」。どうせ呑めなくなるんやったら今のうちに呑んどこというこの根性、すごいですね。TVワイドショーでの黒田さん、少しスリムになったようですが、あの鋭くも暖かいコメンテーターぶりは変わりません。エラぶらない、上にも下にも右にも左にも遠慮しない核心を突いたあの説得方の源泉は何だろうと、以前から興味はありましたが、黒田さんの半生記を読んで、な～るほど……。オール3の思想、つまり通知簿がオール5でもなく、オール1でも

ない真ん中の3に自分を置くと、上も下もよく見え、さらに右に左に偏ったものも見えてくる。そこから生まれる考え方や生き方が共生の社会にふさわしい……。黒田清著『オール3の思想』-黒田少年の通知簿-(近代文芸社)は、彼の半生を軸に、家庭、友情、青春、戦争、平和、文学、教育等が時代を背景に描かれています。赤裸々、一行も自分を美化した部分のない点では、ちょっとお目にかかれぬ半生記です。商家に生まれた彼、小さい時から人の役に立つのが嬉しかったらしく、用事を言いつけられるとたいそう元気が出て……。だから、女中さんがシュンとしている時など、元気づけようとわざわざ用事を作って言いつけたそうです。幼稚園時代から家にまっすぐ帰らなかつた癖は今に続くとして、面白いのは超放任主義の父上。彼が京大二年の時、めずらしく家にいた父上が「お前もそろそろこの大学へ行くか決めたあかんで」、これにはさすがの黒田青年もボカン。数ある彼の著作の中では『地を這うペン』など有名ですが、この『オール3の思想』ぜひ一読を。エッ？月田秀子の半生記？それは、この連載終了後始まる予定です、はい。

追記：身体に異常を感じた時に、黒田さんのマネをしてはいけません。私、マネをしました。やっぱり入院しました。今、病床でこれ書いてます。トホホ……

cartas

■"saudade"に想う FADO No.18のコインブラ和訳の注記がひっかかり、この言葉の付近を うろうろしています。民族性を表す言葉(こだわりがあって、言葉を変えている)。

では、日本の"saudade"は何なのでしょう。そう考えながら、この注記の日本語訳「郷愁、懐旧の情、愛惜、...」をみて、日本の文化的特徴にすごく近いと感じました。わび、さび、しおり、幽玄、「古寺巡礼」や「陰翳礼賛」などで紹介されている日本文化の中にある時間の流れに対する想い、人のはかなさとしたたかさ、に似ていませんか？それは、「一人一人の想いを大切に感じる方」ではないかと思いますが、歴史の培ってきたものなののでしょうか。こども少しこだわっています。あくまで感じ方として、考え方や生き方ではないのです。

「だからどうなの」「で、どうするの」と聞かないで欲しい。石畳を想い、ワインのような血を想い、見果てぬ恋を想い、薫草きの庵を想い、野の花を想うことは、そのまま、さまざま人の、様々な想いを(そーっと、大事に大事に！！)感じていることに違いないのです。とは言え、ワインと酒は味わいが違い、石畳と砂利道は趣が違います。ポルトガルにはポルトガルの、日本には日本の、味わいがあります。やはり、あおによしの「やまとごころ」が的確かと思えます。けっして、「大和魂」ではありません。人の想いのひとつひとつを大切に想う気持ちです。「花を見て、はかなく去った人の想いを浮かべ、鳥の声に愛のささやきを重ね、風に無常を想い、月に遠い恋人を想う」このころです。Fadoが saudade を歌っているのに対し、「やまとごころ」は音楽になっていない気がします。「艶歌」？少しちがう気がします。「雅楽」これも少し違う気がします。秋篠の苔の庭を歌いきっている曲など無いように思います。「詩」も少ないし、「曲」も...寂しい気がします。我が民族の歌が無いのが！スコットランド民謡を日本的音楽と勘違いしている位ですから、無理も無いのかもしれませんが、「やまとごころ」を歌うジャンルがあってもいいように思いますが。

月田秀子「やまとごころ」を歌う！なんていかがですか？

(大阪/F.T)

■2年前の秋の日に初めて島田にファドを月田秀子を迎えました。素人ボランティアによる「カザ・ド・ファド」は、誰もポルトガルへ行った事がない為何もかもがポルトガル風でした。タラのコロケは細かくミルされ、パン粉がついてついて、ポルトガルの本物とは違ったけど、秀子さんにこのコロケが一番美味しいと言われて、お料理班は大感激。サルディーニャ(イワシ)は立派すぎてとてもリスポンの可愛いお嬢さんじゃなくてグラマラスで妖艶でした。会場では2人の Senhorita Bonita(かわいいお嬢さん)が「バラ」を売り、みんなはそれを買って秀子にプレゼント。そんな楽しいファドの一夜があったから、あっという間に2年近くが経過。ところで最近の日本は少し乱れてきて心が疲れる事件ばかり。こころで少し心をイヤシタイ、いやシナイタイ。『秀子のファドと素敵なギターラ、ギターの音色で深く優しい心を取り戻したい。』と思います。そんな訳で2年前の夜を再現したくて月田秀子のライブをします。

来る7月19日(日曜日)は少し広くて、冷房の効いたきれいな会場で「月田秀子ファドステージ」を定員200名で行います。7月20日(海の日)はスタッフの打ち上げ的に仲間うちで、小さな暗い会場「カザ・ド・ファド」を開催します。

お近くの方、遠方の方、FADOにのめり込んでいる人、これからの人も月田秀子の魅力を充分お楽しみに奮ってご参加ください。尚島田は大井川の畔の小さな田舎町ですから、その積もりで。

●問い合わせ、詳細は

嶋田粹意気の会 TEL 0547(35)2981(鈴木迄 20:00まで)

☆ 1998.7.19(SUN) “月田秀子ファドステージ” 18:00～
島田・「宮美殿」

☆ 1998.7.20(MON) 月田秀子“カザ・ド・ファド” 18:00～
島田・「アーリーバード」

(島田/鈴木房雄)

vamos cantar !

ポルトガルの家

歌詞 Caldo Verde

ポルトガルの家に 似合うのは
テーブルの上のパンとぶどう酒
ドアをそっと叩けば
誰でも 暖かくテーブルに迎えられる
ポルトガルの家に 似合うのは
気っぶ良くて 飾らない人たち
貧しいながらも 陽気なのは
気持ち良く分かちあう 大らかな心があるから

白塗りの壁
ローズマリーの香り
たわわな葡萄の房
庭の二輪のバラ
青タイルのサン・ジョゼ
加うるに春の陽光
キスして交わした一つの約束
私を待っている二つの腕

愛ある幸せ
窓辺のカーテンに月の光
さし込む太陽は ほんの少しでいい
ささやかな生活を楽しむには
ほんの少しで充分
愛とパンとぶどう酒と
一杯の熱々の野菜スープがあれば

UMA CASA PORTUGUESA

LETRA: REINALDO FERREIRA
MÚSICA: V. M. SEQUEIRA; ARTUR FONSECA

UMA CASA PORTUGUESA FICA BEM
PÃO E VINHO SOBRE A MESA
E SE À PORTA HUMILDEMENTE BATE ALGUÉM
SENTA-SE À MESA COM A GENTE
FICA BEM ESTA FRAQUEZA, FICA BEM
QUE O POVO NUNCA DESMENTE
E A ALEGRIA DE POBREZA
ESTÁ NESTA GRANDE RIQUESA DE DAR E FICAR CONTENTE.

QUATRO PAREDES CAIDAS,
UM CHEIRINHO DA ALECRIM,
UM CACHO DE UVAS DOURADAS,
DUAS ROSAS NO JARDIM
UM SÃO JOSÉ DE AZULEJOS
MAIS O SOL DA PRIMAVERA,
UMA PROMESSA DE BEIJOS
DOIS BRAÇOS A MINHA ESPERA.

É UMA CASA PORTUGUESA COM CERTEZA
É COM CERTEZA UMA CASA PORTUGUESA.

NO CONFORTO POBREZINHO DE MEU LAR
HA FARTURA DE CARINHO
A CORTINA DA JANELA É O LUAR
MAIS O SOL QUE GOSTA DELA
BASTA POUÇO POUÇOCHINHO PARA ALEGRAR
UMA EXISTENCIA SINGELA
É SÓ AMOR PÃO E VINHO
E UM CALDO VERDE VERDINHO A FUMEGAR NA TIGELA.

informação

●各地にゲリラ的に突然出現するファド倶楽部。諏訪ファド倶楽部の伊藤さん、恵那ファド倶楽部の繁澤さん、青森ファド倶楽部の鳴海さん、皆孤軍奮闘で大変でしょうが、ファドを通して、そこに住んでいる人達の人間の輪が広がればいいなと思ってます。

そして、7月11日 銀座「アルテリーベ」でのライブを機に、東京ファド倶楽部も誕生しそうな気配。

ファド、月田を肴にわいわい盛り上がりたい連中もいる。北海道の千田一派、山梨の磯野一家、7月19、20日、二日間のファドライブを企画してくれた島田の鈴木さんを中心とした「粋意気の会」がそれである。7月20日には島田の山の中に「CASA DO FADO」まで作ってしまうほどの熱の入れよう。飲む事、食う事大好き人間の月田、野上には、これまた嬉しい。いずれにしても、1年後、5年後、10年後と、共白髪的に共感の輪を広げ、深めていきたいものだと思う。無理せず、焦らず、欲張らず。支部とか組織論なんてものとは、できるだけ縁遠くありたいと。

●5月22日から9月一杯までの会期で、リスボン万博が開催されている。サッカーの世界カップ騒ぎでほとんどかき消されている感が強い。

某大手旅行会社から、万博で月田がファドを歌い、そのツアーを企画したいとの申し入れがあった。本場で、しかも、晴れの場で何故月田がファドを歌わなければならないのか、どうも合点が行かず、お断りした。そしたら今度は、「月田秀子と行くポルトガル・ファドの旅」なんていうのはどうという。リスボン、コインブラ、ポルトのファドを聴き歩き、最後に月田のファドライブをリスボンで、というファンの人達にとってはおいしい企画かもしれない。そんな思いがよぎって「うん、おもしろいかもね」と言ったものの、よくよく考えると、私自身が納得のゆく内容でない人には勧められない。30人の団体となるとどうも無理があり過ぎる。2日ほど眠れず思いあぐねんだ結果、やはりお断りすることにした。

来年は、池側、野上ギタリスト共々、リスボン詣でをしようと思っている。日程が決まりしだいお知らせします。リスボンでバッテリーツアーもおもしろいと思いませんか。

<月田秀子のスケジュール>

- | | |
|--|------------------------------------|
| 7月 5日(日)芦屋山手倶楽部ディナーショー | *要予約 TEL 0797-23-5900 |
| 11日(土)東京・銀座「アルテリーベ」 | *要予約 TEL 045-713-6277(斉藤) |
| 19日(日)静岡・島田「宮美殿」 | *問合せ TEL 0547-35-2981(鈴木) |
| 20日(月)静岡・島田「アーリーバード」 | *問合せ TEL 0547-35-2981(鈴木) |
| 24日(金)芦屋市立美術博物館 | *問合せ TEL 0797-38-5432(ミュージアムコンサート) |
| 27日(月)大阪・心斎橋「アートクラブ」 | *問合せ TEL 06-253-0827 |
| (1)8:00~3回ステージ(入れ替えなし)
ポルトガルギター:池側 忠, ギター:佐野健二 | |
| 30日(木)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| (1)8:00 (2)9:00 (3)10:00(入れ替えなし)
ポルトガルギター:池側 忠, ギター:野上圭三 | |
| 31日(金)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| (1)8:00 (2)9:00 (3)10:00(入れ替えなし)
ポルトガルギター:池側 忠, ピアノ:河村真千子 | |
| 8月 5日(水)大阪・西中島南方「三裕の館」 | *問合せ TEL 06-304-1745 |
| 開演 8:00
ポルトガルギター:池側 忠, ギター:野上圭三 | |
| 7日(金)福島・矢吹町「町民会館」 | *問合せ TEL 0248-62-6084(月田) |
| 9日(日)福島・二本松「ざくろ館」 | *問合せ TEL 0243-24-3968(佐久間) |
| 27日(木)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| 28日(金)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| 31日(月)大阪・心斎橋「アートクラブ」 | *問合せ TEL 06-253-0827 |
| 9月 2日(水)大阪・西中島南方「三裕の館」 | *問合せ TEL 06-304-1745 |
| 18日(金)北海道・帯広市とかちプラザ「レインボーホール」 | *問合せ TEL 011-621-8610(らむれす) |
| 19日(土)北海道・釧路市今井6階特別会場 | *問合せ TEL 011-621-8610(らむれす) |
| 24日(木)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| 25日(金)京都・四条河原町 シャンソニエ「巴里野郎」 | *問合せ TEL 075-361-3535 |
| 28日(月)大阪・心斎橋「アートクラブ」 | *問合せ TEL 06-253-0827 |

<編集後記>

仕事の合間を見計らって、奥歯を二本抜いた。受話器の向こうで母曰く、「踏ん張りが利かなくなるかもしれないね。」いやはや、そこまで考えなかった。歯食いしばってがんばってきた月田もこれまでか。友曰く、「また生えてくるよ。」乳歯じゃないって歯。久々登場のエピソード帖。身体はこわれても、ペンはますます冴え、「見よ、内間天馬の根性を！」早く良くなって、又、飲もうよ。(月田)

月田秀子ファド倶楽部 ホームページ

<http://www.osk.3web.ne.jp/~fh/index.htm>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第19号
- 1998年7月1日発行(季刊:年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒543-0023 大阪市天王寺区味原町2-10 エヌケイビル502号
- TEL&FAX 06-765-4808